

第53号 2017年12月15日

663-8143 西宮市枝川町19-10 甲子園浜自然環境センター内 甲子園地区埋立事業対策協議会気付

<http://www.npo-koshienhama.com/>

*** 甲子園浜12ヶ月展 ***



「流木民合唱団」

実際に甲子園浜に漂着した流木を素材にして作られ、ひとつひとつの表情や、楽譜にいたるまで、細部にこだわっています。

テーブルとその足もすべて手作りされ、何度見ても新発見のある、格調高い芸術作品です。

10月3日から9日まで甲子園浜自然環境センターで開催した「甲子園浜12ヶ月展」は、甲子園浜の様々な瞬間を切り取った写真や、年間にわたる地道な観察記録など、多彩な作品が寄せられました。期間中のべ270名の来場がありました。

「38年前の甲子園浜の砂」

昭和55年に3丁目浜で行われた砂の造形コンテストに参加した子供が掲載された新聞記事とともに、今は珍しいコーラのガラス瓶に砂を38年間保存していたお母さん。現在の同じ場所の砂とともに出品してくれました。



「オナガガモ」

冬の甲子園浜を代表するオナガガモが、みんなで逆立ちして海藻を食べているのが可愛い写真。



「甲子園浜の砂浜の粒径組成」 甲子園浜の砂つぶ、



西と東で感触がずいぶん違うと思っていたのが、数値で示されていて、納得。

「年賀状」 12ヶ月展にふさわしいカラフルな版画は、もらったらとてもうれしい。

「甲子園浜にやってきたクラゲたち」



何種類ものクラゲが甲子園浜に来ている。その

期間はそれぞれとても短い。よほど浜に通わなければ、

これだけ多くの種類を観察できないだろう。貴重なデータである。



「甲子園浜で遊ぶ私と妹」 「海で遊ぶ」ではなく



「浜で遊ぶ」というところに、甲子園浜が子供達にとって新しい場所だと感じられて、とてもうれしく

思えた作品。花が咲き、虹が出て、鳥たち魚たちもみんなうれしそうに跳ねていて、妹と甲子園浜で過ごしたひとときが、とても楽しかったことが表現されている。

はまん婆のひとりごと

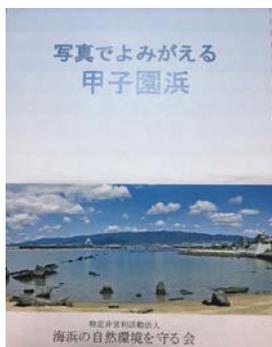
ミノウミウシの仲間

この10ミリほどの小さい生き物を見たのは2001年12月の事だった。トゲアメフラシに似ていたので、てっきりその幼い姿と思ったのだった。ミノウミウシの仲間と知ったのは何ヶ月も後だ。巻貝の仲間にしてアメフラシやウミウシそしてミノウミウシとのこと。甲子園浜では7種確認されているが未だに名前がわからない。水槽に海藻をたくさん入れておいたある日突然海藻の上に出現したり、水槽の側面に白い腹がくっついている形で見つかる。発見の楽しさを期待して「はまん婆の水槽」をまた頑張ってみようかな。 東山 直美



棘の先端は鮮やかな朱色をしている

『写真でよみがえる甲子園浜』発行



昨年開催した『写真でよみがえる昭和の甲子園浜展』が冊子になりました。オールカラー、A4版 24ページ。200円でお求めください。

📷 甲子園浜 懐かしの写真館 📷



冬の恒例行事として、とんとと凧揚げがあった。とんとは、竹などを円錐状に組み、正月飾

り、書き初めなどを焼いて、高く上がれば上達するといわれた。燗おきで餅も焼いて食べた。甲子園浜では1982年まで5回行われた。凧揚げも小正月の頃、町会ごとに連凧を作って、大人も一緒に興じていた。1995年が最後だった。



活動報告

- 9月24日 海浜清掃 108名 可燃ゴミ 1,070kg
不燃ゴミ 30kg ↑清掃史上最大量のゴミ
- 10月3日～9日 甲子園浜12ヶ月展 延べ270名
- 10月3日 南甲子園小学校5年環境学習
- 10月1、7日 阪神生物学会植生調査
- 11月5日 伊藤ハム合同クリーンアップ
合わせて130名、可燃ゴミ410kg、不燃ゴミ20kg
(ゴミ収集協力：ヤマサ環境エンジニアリング)



青のジャケット伊藤ハムさんと合同でゴミ拾い



ソーセージで休憩

- 12月10日 「武庫川づくりと流域連携を進める会」に甲子園浜の植生を説明
- 12月13日 南甲子園小学校3年野鳥観察

活動予定

- 2月4日(日) 冬の鳥観察会
講師：日本野鳥の会ひょうご 杉田義彦氏
オナガガモ、ヒドリガモ、ホシハジロなどカモ類やカンムリカイツブリなどの渡り鳥が見られます。楽しい杉田さんのお話も聞けます。是非ご参加ください。